

⑧ 田 中 實 氏 （多楽島元島民）



私は元教員で、この斜里中学校で長く勤めたことがあり、大変お世話になりました。

北方領土については、授業でも習っているとは思いますが、日本固有の領土である北方領土は、北海道の東側に位置します。北方領土で一番大きい島である択捉島は、日本でも一番大きい島です。二番目大きい国後島も日本で二番目に大きい島です。

私の育った多楽島（たらくとう）の話させていただきます。

1945年（昭和20年）、終戦後のある天気の良い日に、海辺の方を見ていたら、今までに見たこともない船が何艘もありました。それはソ連軍が北方四島を占領するために択捉島方面から攻めて来た船でした。

私はその時小学5年生で、夏休み中でした。隣近所では毎日、ソ連軍の兵隊が家に入り込んできて、家族に銃を向け、タンスを倒し、仏壇も倒し、押し入れをかき回す、そういうことが毎日続くようになりました。

隣近所の人たちは、このままじゃ生きては行けない。年寄りも子供もいて、安心して暮らしてはいけなから、この島から逃げようと決めました。隣近所で相談して、1軒から2人出して船で根室に逃げ、うまくいったら、また2人ずつ出して逃げようと話しました。

当時、私の家は父、母、兄2人、私と弟の6人家族でした。

私は体の調子の悪かった父と、その面倒を見る母が最初にこの島から逃げるものだと思いましたが、母からは、父と自分が最初に根室に逃げなさいと言われました。家族の中で一番、ソ連兵を恐れていたのが私だったことを母親は知っていたからでしょう。

毎日、夕方になると5、6人のソ連兵が馬に乗ってやって来て、家を物色します。そして銃を向けて家に入ってきます。その度、私は親の背中にしがみついていた。ソ連兵に銃を向けられたときは、生きた心地がしませんでした。

島から逃げる日は、持っていく荷物を昼間に海辺まで運びました。夕方には私たちを乗せる船が来ます。出発は真っ暗になる真夜中でした。出発するときも船のエンジンはかけません。エンジンをかけると大きな音がするので、ソ連兵に見つかる可能性が高いため、竿で押して進みます。

出発して間もなく、私たちの乗った船はソ連兵に見つかりました。そのとき、ソ連兵は馬に乗

り、私たちに向かってきましたが、私たちの船の近くには来ることができません。しかし、ソ連兵は私たちの船に目がけて鉄砲を撃ってきました。その銃弾は体のそばを通ったり、船体に当たったりしました。何とか船のエンジンを掛けてソ連軍から逃れることができました。そのときは生きた心地はしませんでした。何とか無事に根室に着くことができましたが、当時の根室は空襲により一面焼け野原になっており、家が全然ありませんでした。親戚に頼ろうと思って根室に来ましたが、頼るところがなくなりました。

それでも根室に上陸したとき、見知らぬ人が近づいてきて、リヤカーを持って来てくれました。また、1軒のお寺を紹介していただき、何とかお寺に泊めてもらうことができました。そのお寺には半月くらいお世話になりました。父から学校に行くよう勧められ、根室の学校に通うことになりました。その後、兄たちも根室に来ました。終戦後、ソ連兵が島に来てからは、ただ苦しみだけを感じさせられたのが実感です。

私はたまたま、船で島から逃げてきましたが、択捉島に住んでいた方は、強制送還で無理やり樺太（サハリン）に連れて行かれ、樺太ではプタ小屋のような収容所に入れられ、その後、ようやく北海道へ上陸した人もたくさんいたようです。

私の生まれ育った島は多楽島で、根室からそれほど遠く離れていません。羅臼町からは国後島が間近に見えます。それらの島は日本の領土だったものです。ある日突然、ソ連兵がやって来て、あっという間に四島すべてを占領してしまいました。

私の心の中には、ふるさとである北方領土が今も残っていますが、今もなお北方領土はロシアに不法占領されています。これから皆さんも、地理や歴史の勉強をしたいと思います。ロシアと日本の関係を勉強していただき、北方領土問題に関心を持ってください。

<訪問校>

- 斜里町立斜里中学校（平成24年11月13日（火））

